



胃内視鏡検査について

まずは、胃内視鏡検査と胃透視検査の違いを説明します



胃がんや胃潰瘍などの病気を発見するために有効と言われている検査には、胃内視鏡検査（胃カメラ）と胃透視検査（バリウム）があります。

胃内視鏡検査：口または鼻から小さな医療用カメラのついた柔らかいチューブを挿入し、直接胃や食道、十二指腸を撮影し診断する検査。

胃透視検査：胃を発泡剤で膨らませたあとでバリウムを含む造影剤を飲み、検査台の上で身体を上下左右に動かし胃の粘膜全体に造影剤を行き渡らせながらレントゲンで胃の内部を観察する検査。

	長所	短所
胃内視鏡	<ul style="list-style-type: none">・微細な病変も診断できる。・組織をとり、顕微鏡検査ができる。	<ul style="list-style-type: none">・カメラ挿入時の苦痛がある。・麻酔などの前投薬によるアレルギー反応が出る場合がある。
胃透視	<ul style="list-style-type: none">・胃の全体の形が分かる。・食道や胃の動き、食べ物の通る様子がわかる。・胃カメラに比べて検査時間が短い。	<ul style="list-style-type: none">・異常が見つければ後日改めて胃カメラを受けなければいけない。・検査後バリウムが腸の中で固まり便秘が起こりやすい。・放射線の被曝がある。(妊娠中、妊娠の可能性のある場合は避ける。)

胃内視鏡検査でわかる病気

悪性腫瘍

胃がん、食道がん、十二指腸がん

その他

胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性胃炎、慢性胃炎、胃ポリープなど



検査を受けるときに注意すること

○前日、夕食は午後9時までに済ませて、消化の良いものを摂ってください。

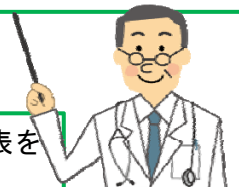
○当日、午前7時頃までお水などの水分（検査の妨げとなる牛乳などは除く）は摂取して頂いても構いません。また、**降圧剤**や**抗凝固剤**などを内服されている方は検査や病気に影響が出ることがありますので、**午前7時頃までに内服を済ませてください。**抗凝固剤内服中の場合は組織検査などを行うことができません。

○内視鏡検査は病気の診断、治療に有効な検査ですが稀に薬剤によるアレルギー性ショック（血圧低下、呼吸困難など）や出血、穿孔（穴が開くこと）、誤嚥性肺炎などの合併症が生じることがあります。

○胃内視鏡検査で組織検査などを実施した場合は保険適応になります。**当日必ず保険証を持参して下さい。**

異常が見つかったら

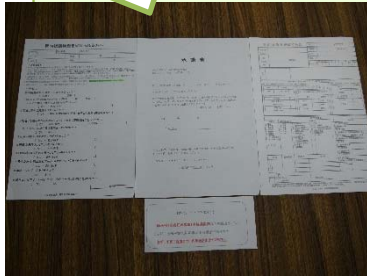
要精密検査の判定の場合、紹介状が発行されます。紹介状に同封されている医療機関一覧表を参考に、必ず医療機関を受診して、詳しい検査を受けてください。



胃内視鏡検査 当日の流れ

①看護師・技師による問診チェックと
検査の流れの説明

このような受診票、説明書、
承諾書が届きますので、よく読
んで記入して来てください！



②胃の中をきれいにするための水薬（100cc）を飲み、
ベッドで仰向けになり、右回りで2回転する

③ベッドに寝たまま、のどの麻酔をするための
ゼリー状の麻酔薬（5cc）をのどの奥に3分ため、
起き上がって飲み込む
***麻酔の前に、入れ歯はとっておく**



④検査室のベッドに、左側が下になるように
寝転がり、「く」の字になる
右手は腰の方向に伸ばし、左手は右脇の下へ入れる



⑤マウスピースを口にくわえ、内視鏡を飲み込んでいく
***この時、内視鏡を噛んだり手で持ったりしないでください**



***全身の力を抜き、鼻からゆっくり浅い呼吸をすると
楽に検査ができる
*空気を入れ胃を膨らませるため、なるべく「げっぷ」
をしないよう、出そうな時は2~3秒息を止めて意識す
ると、止まることが多い**

⑥医師からの説明
看護師、検査技師から検査後の注意事項の説明
***検査室を出てすぐの椅子でお待ちください**



鉛筆と鼻用カメラと口用カメラを
比較した写真です！

検査前の処置が簡単で副作用が起こりに
くいことや、鼻のカメラより太いため広範囲
をしっかりと観察できることから口からの検査
をお勧めしています。

前回の検査で口から飲めなかった方など
の場合に鼻からの検査もしておりますので
ご相談ください。